

平成 30 年度 第一回 学校運営協議会 議事録

日時：平成 30 年 7 月 6 日（金）

午後 7 時～8 時 30 分

会場：同窓会館 1 F

出席者

（協議会委員） 新崎 国弘 様 井関 義彦 様 佐藤 眞 様
古川 広宣 様 楠本 治 様
（事務局） 准校長 教頭 主査 教諭 記録

1. 開会挨拶、准校長挨拶

2. 委員紹介

3. 議長選出：新崎先生

4. 協議

（1）本校の現状について

◎平成 31 年度 使用教科書について

今後の学習指導要領の改訂に伴って変更もしていく。

◎全国高等学校定通総合体育大会への出場について

・全国大会出場

陸上競技部 男子 1 名（棒高跳び）、女子 2 名（円盤投げ、100m・200m）

8 月 9 日（木）～12 日（日）東京・駒沢陸上競技場

ソフトテニス部 女子 4 名

8 月 8 日（水）～11 日（土）サニーインむかい・テニスコート

中学時代不登校だった生徒が、クラブ活動をきっかけに改善。ソフトテニス部の 4 人中 3 人が、クラブ活動を通して自信を持つことができている。

◎今年度の取り組み紹介

1、学校の状況について

- ・中卒生の減少傾向もあり、本校への志願者が減少している。
- ・奨学金・給付金の利用をしている生徒が多い。

- ・ここ2年は、中途退学者が減少している。
- ・全日制から定時制に転籍してきて、問題を起こす生徒が増えている。
- ・留年生の大半は再履修をしている。
- ・H29年度卒業生では1名、大学進学者がいた。この生徒は中学時代不登校で、適応指導教室に通っていたが、本校に来て改善され、教師を志望して進学した。
- ・卒業後の進路として、アルバイト先に継続雇用として就職する生徒も多数いる。

Q.新崎様から、定員割れが続いていることについての質問

→准校長：全日制は3年連続して定員割れしていて、府教委でも検討されている。

「工科」から「総合学科」に変更されることがあるかもしれない。

H19年度の統廃合後、南河内では定時制が本校のみ。

2、地域連携について（中間報告）

- ・H30年度は、4月24日 カトリック幼稚園、4月27日 藤井寺幼稚園、5月3日 御舟町交流、5月9日 ラミー保育園、5月12日 PTA・保護者交流会
5月17日 高槻支援学校との交流を行った。
5月12日 PTA・保護者交流会の際に、いちご狩り時に保護者の方と軽い話し合いなどができて、有意義な時間を過ごすことができた。
5月17日 高槻支援学校との交流の際には、生徒と食事を共にしたあと、自動車実習（タイヤ交換）を行い、農園でたまねぎの収穫を行った。
- ・5月26日には、クリーンキャンペーンとして、御舟町の方々と地域清掃を行った。

3、なごみカフェの紹介

- ・なごみカフェとは、様々な問題を抱えている生徒に寄り添い、心を和ませる場。
- ・今年度より、大阪府立大学の学生ボランティアの男性1名、女性1名が週に一度参加してくれている。
- ・以前はNPOの外部事業として行われていたが、打ち切られてしまった。しかし、本校ではなくなっただけではないということから、教員達が協力して継続している。

(2) 本校教育に期待すること

- ・井関様より

この10年間で、藤井寺工科高校（定）は親しみが持てるように大きく変わった。

地域とのつながりを深めるために実施されているいちご狩りも、幼い子どもだけでなく高齢者、住民全員が楽しみにしている。

クリーンキャンペーンも、市役所任せではなく住人が協力することで結束力にもつながっている。藤井寺工科高校（定）に声をかけさせてもらって、脈々とつながっている。

る。地域住民も喜んでいる。これからもお互い良い影響を与え合えるような関係を築いていきたい。

- ・古川様より

卒業生として誇りに思う。特に「なごみカフェ」の運営は、居場所のない生徒にとって、先生に寄り添ってもらえるということもあり、ありがたいことだ。

- ・佐藤様より

なごみカフェ・図書室・HR 教室等、生徒それぞれの居場所の選択肢がいくつもあるのが良いのではないか。

地域連携は、これから生徒が社会とつながりを持つ上で、大事なのではないか。

いちご狩りで、ボランティア生徒が幼児、園児に対して世話をすることで、自己有用感を抱くのではないか。

- ・楠本様より

東大阪の夜間中学校に勤務した際の、年配者との関わりを思い出した。

生徒が学びたいという気持ちを大事にしてもらっている。ボランティアとして参加することで、生徒自身に自信が付いたり、優しさに気付いたりしているのだろう。

藤井寺工科高校（定）は、自己有用感や自尊感情に気付かせてもらえ、実感できる学校である。

- ・新崎様より

私は現在、福祉教育に関わり、学生を指導している。

藤井寺工科高等学校（定）は、「人は“必要とされること”を必要としている」（エリクソン）の言葉を実践していると感じた。

いちご狩りや支援学校との交流に参加することで、生徒は自身が必要とされていることを自覚することができる。

多様性の時代、偏差値だけで輪切りするような学校選びはダメである。

コミュニケーション力不足の生徒が、就職するのが難しいのではなく、そのような生徒も就職できるようにすべし。

高校は、特徴ある学校こそ残すべきではないか。そのことを本校から訴えるべし。

三重県ではフリースクールを運営していた NPO 法人が、学校法人化し、キャリアデザイン科を設置し、障がい者施設で世話をすることで単位化している。サービスラーニングすることや地域に役立つことで、自信を付けている。

- ・森村様より

アルバイト経験の無い生徒の受け入れ先を開拓中です。まずは、本校生の実情を理解していただき、窓口となっただけの商工会議所を突破口として、企業にてトライアルバイトを経験の後、マッチングすればアルバイトが継続できるような仕組みを作りたい。

- ・新崎様より

良い取り組みだと思います。松浦 SSW の紹介で、本校の学校運営協議会委員になったが、本校のような取り組みを継続してもらいたい。生徒を信頼・信用する姿勢に感銘を受けました。

5. 閉会挨拶